

浸水被害から地域を守る内水排除施設。 《内水排除の仕組み》

前号で紹介したように琵琶湖が増水すると、一部の地域では湖の水で浸水被害が起こる可能性があります。それを防ぐのが湖岸堤および内水排除施設です。今回は、イラストを使って内水排除の仕組みを分かりやすく解説しましょう。1) 平常時 平常時は、内陸側に降った雨は各河川より水門、樋門ひもんを通して琵琶湖へ流入します。2) 大雨で琵琶湖側と内陸側の水位が上昇をはじめます。この時、内陸側の水勢が強い場合は琵琶湖の水位が高くても水門、樋門

は開けています。また、この時点で内水排除施設のポンプ運転の準備も終了しています。3) 琵琶湖の水位が内陸側の水位を上回り、水の逆流が始まると水門、樋門を閉め、排水ポンプを稼働します。4) 内陸側にたまった水をポンプで琵琶湖側に送る内水排除の効果で内陸側の水位が下がり、浸水区域が減少します。琵琶湖の水位が下がり、逆流の恐れがなくなった時点で水門、樋門は再び開けられます。

